

# 平成 25 年度放射性セシウム低減関係の試験計画概要

H 2 5 年 5 月  
畜産酪農研究センター

## 1 飼料作物の草種及び土壌条件の違いによる吸収移行調査 (H23～H26)

【草地飼料研究室】

飼料作物における草種別の放射性セシウム (Cs) 吸収移行係数を解明し、放射性 Cs の吸収移行が少ない草種を選定するとともに、土壌条件の違いが放射性 Cs の飼料作物に及ぼす影響を調査する。今年度は永年草に焦点をあてて各草種の移行係数の調査を実施する。

対象作物は

永年草：オーチャートグラス、チモシー、トールフェスク、ペレニアルライグラス、ケンタッキーブルーグラス、クローバー

単年草：飼料用トウモロコシ、イタリアライグラス、飼料用稲、スダングラス、ミレット、エンバク、ライムギについても継続調査を実施。

## 2 飼料作物における深耕による吸収抑制の検証 (H23～H25)

【草地飼料研究室】

放射性 Cs に汚染された土壌の反転耕による放射性 Cs 吸収抑制の効果を確認する。

再深耕したほ場(プラウ耕 2 回)と浅耕したほ場(プラウ耕 1 回+ロータリー耕)にイタリアライグラスを作付し、耕起条件の違いによる放射性 Cs の牧草への影響を調査。

また、深耕による更新後 2 年目のオーチャートグラスの放射性 Cs 濃度を調査し、更新後の牧草の状況を調査。

## 3 飼料作物栽培における資材施用による吸収移行抑制技術の開発 (H23～H25)

【草地飼料研究室】

カリ資材の施用による放射性 Cs の飼料作物への吸収移行抑制の効果を確認調査する。

イタリアライグラス及びオーチャートグラス(更新草地)のカリ資材の量及び耕起回数を変えて放射性 Cs 吸収抑制効果の検討を実施。また、飼料用トウモロコシ、イタリアライグラス、オーチャートグラスについて、現地で資材効果調査を実施。

## 4 公共放牧場実態調査 (H24～H26)

【草地飼料研究室】

永年牧草地については放射性 Cs が高濃度で残存しやすいため、県内 4 公共放牧場における草地の放射性 Cs の汚染実態及び経年的動態を調査する。また 2 放牧場において石灰・加里資材効果の実証を行う。

## 5 ロールベール調製時の土壌混入低減に関する試験 (H24～H25)

【草地飼料研究室】

飼料作物の収穫でロールベールに調製する場合、放射性 Cs に汚染された土壌がロールベール内に混入し放射性 Cs 濃度が高まることが懸念される。このため、土壌混入を抑制する作業体系を検討する。

## 6 飼料作物栽培における堆肥の適正施用技術の開発 (H24～H26)

【畜産環境研究室】

放射性 Cs が暫定許容値を超える堆肥であっても 8000Bq/kg 以下ならば、自己の飼料作物生産ほ場に施用可能であるが、生産者の中には、放射性 Cs 含有堆肥を施用した場合の飼料作物への放射性 Cs の移行を懸念し、堆肥の処理利用に苦慮している状況も見られる。

そこで、放射性 Cs 含有堆肥を施用した場合の飼料用トウモロコシ、イタリアライグラス、スダングラスおよびミレットへの放射性 Cs の移行等の影響について調査を実施する。

## 7 堆肥の汚染対策技術の開発 (H24～H26)

【畜産環境研究室】

高濃度堆肥の一時保管技術として、センター内にビニールシートを用いた簡易保管施設を設置し、当該施設を農家等へ実証展示するとともに、保管中堆肥の放射性セシウム濃度の推移や周辺環境への影響について調査する。

## 8 牧草ロールベールサイレージの簡易堆肥化技術の検討 (H24～H26)

【環境飼料部】

暫定許容値を超えた牧草ロールベールサイレージを効率的に堆肥化及び減容化する技術について検討する。

## 9 低濃度汚染飼料摂取牛の体内放射性物質濃度推定に関する研究 (H24～H25)

【肉牛飼養研究室】

現在、牛肉の放射性 Cs の基準値は 100 Bq/kg であるが、安全・安心な牛肉を生産するため、生産現場では放射性 Cs 濃度を限りなく低減する努力をしている。

そこで、放射性 Cs の暫定許容値 100 Bq/kg 以下の牧草等を牛に給与し、放射性 Cs の牛体への蓄積程度や牧草給与を中止した場合の牛体内濃度について、生体で推定する方法を開発する。